

# オプス・デイの属人 区長からのクリスマ スのご挨拶（2021 年）

オプス・デイの 属人区長、  
フェルナンド・オカリス師  
は、2021年のクリスマスの挨拶  
をします。「幼子を見ること、  
信仰の目で神の愛を見ること、  
（...）その瞬間に神が  
愛情を込めて私たちを見ている  
ことを知っていること」です。

2021/12/20

待降節の最後の数日間、クリスマス  
を間近に控えた今、主の到来を祝う  
ために、もっと良く準備したいと  
思っていることでしょう。黙示録の  
最後の言葉を思い出すこともできる  
でしょう。それは、主の再臨を語っ  
ていますが、同時に恒久的な言葉で  
もあります。「主イエスよ、来てく  
ださい！」主が、クリスマスの祝い  
とともに来てくださいますように。  
しかし、何よりも、私たちの魂に絶  
えず来てくださいますように。特  
に、毎日の聖体において来てくださ  
いますように！「主イエスよ、来て  
ください！」。

そして、この望みは、言葉にしなく  
ても、もう一つの望みと結ばれるで  
しょう。それは、待降節に思い出す  
洗礼者聖ヨハネの呼びかけです。

「主の道を整え、その道をまっすぐにせよ」「まっすぐに」しましょう。なぜなら、主の到来は、私たちの準備にかかっているからです。私たちの心や魂の道を、主に開きましょう。日常の中で、祈りと仕事を通して準備しましょう。

そして、もうクリスマスのことを考えましょう。

キリストの誕生は、まことに偉大な神秘です。私たちのために、神が赤ちゃんになったのです。クリスマスの典礼では、イザヤの言葉が繰り返されます。「私たちのために幼子が生まれた」「私たちのために生まれた」。「私たち」と、複数形になっています。これは重要です。確かに、一人ひとりのためですが、さらに、私たち皆のためなのです。

この感覚でクリスマスを過ごし、すべての人との一致、交わりを強めましょう。家族において。私たちは家

族の年を、教会という大きな家族な中で祝っています。そして、教会において、すべての人の父であり、頭である教皇と共に祝っています。

そして、主が「生まれた」のは、すべての人のため、つまり全世界のためでもあるのです。聖ホセマリアが教えたように、多くの人が私たちの仕事、祈りを待っていることを考えましょう。今、まだ多くの場所で、パンデミックのために苦しんでいる人たちがいます。主は、彼らのためにもお生まれになったのです。

神が赤ちゃんとなったこと。それは神秘です。信仰によって受け入れるべき神秘です。クリスマスの季節、馬小屋のご誕生の場面に、幼子を見つめます。

幼子を見ることは、私たちに対する神の愛を信仰の目で見ることです。幼子を見つめるなら、驚くべきことに気づくでしょう。それは、聖ホセ

マリアがある説教で語ったことです。「私たちは常に愛の眼差しで神に見つめられていることを知ります」。互いに見つめ合うのです。私たちは幼子を見つめますが、それと同時に、神は愛深く私たちを見つめてくださっているのです。これを知れば、私たちの限界や困難にもかかわらず、力が湧いてくるでしょう。私たちは常に神に愛されていることを知る。しかし、それには信仰が必要であり、使徒たちがイエスに願ったように、「信仰を増してください」と願うことが必要です。

主へのまなざしの中で、クリスマスの時期には、マリアとヨセフと共に主を見つめることもできます。そして、幼子を見つめることができるように、聖マリアと聖ヨセフに願いましょう。二人が見つめていたように、そして今、天国で見つめているように、私たちも幼子を見つめることができるよう願いましょう。幼子

に神の私たちへの全面的な愛を見る  
なら、安心感と喜びが与えられるで  
しょう。

そうです。クリスマスは喜びの内に  
過ごしましょう。しかし、喜びの内  
に生きることは、苦しみと両立する  
ものです。なぜなら、私たちは苦し  
みながらも、同時に幸せになれるか  
らです。矛盾に見えますが、これは  
真理であり、神の恵みによって可能  
になるのです。

皆さん、メリークリスマス！神が皆  
さんにを祝福してくださいますよう  
に！

.....

pdf | から自動的に生成されるドキュメン  
ト [https://opusdei.org/ja-jp/article/  
zokujinkuchou-kurisumasu-  
aisatsu-2021/](https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchou-kurisumasu-aisatsu-2021/) (2026/03/30)